

■今月の特選句

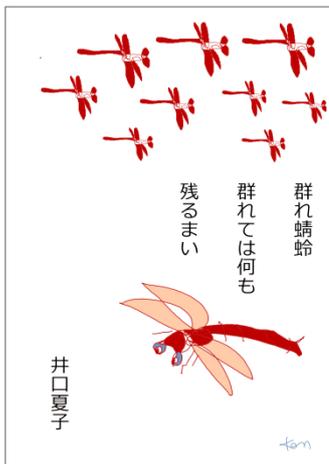
2018年11月



満月を舐め終えたらし屋根の猫

森岡香代子

月と屋根と猫は、絵になる風景の三点セットである。読者の想像力をかきたてるシチュエーションがいいし、なんといっても詩があるね。



群れ蜻蛉群れては何も残るまい

井口夏子

どこにも、群れたがる奴と孤高を保ち続ける奴がいる。作者はきっと後者のタイプに違いない。残そうとしているのは金品か、それとも俳句集か。



尺蠖に我が身の丈を測られる

相原共良

尺蠖虫ほど、自分の身の丈を知っている生き物はいないだろうね。世の中には身の程を知らない輩がいっぱい。尺蠖にきちんと測ってもらおうといい。



夏痩やドリンク剤を一気飲み

山本 賜

夏痩せしてラッキー、などと言うのは若い人の台詞。ダイエットも同じ。「ダイエットして凹凸を失へり」で、何でも痩せればいいというもんじゃない。



表面に栗を盛り付け栗ご飯

堀川明子

伝統的な正しい栗飯の盛りつけ方である。栗は表面だけという「あげ底」式。これは作る側、食べる側の暗黙の了解で、互いの思いやりの上に成立。



名月を欲しがることのしかりかな

山下正純

「しかりかな」がうまい。一茶の「名月を取つてくれろと泣く子かな」など、名月を詠んだ名句は多いが、名月の見事さを「しかり」でしっかり表現。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

終活のいよいよ忙し秋の蟬 ・・・一週間ですべて終えねば	赤瀬川至安
颱風の目尻に小皺見つけたり ・・・見逃してやれカラスの足跡	小川鈍太
さよならの押し出し死球秋惜しむ ・・・惜しむは秋でなくて失投	八洲忙閑
伸びすぎた眉毛に威厳敬老日 ・・・村山首相の眉だけ記憶	稲葉純子
「記憶にはございません」にうそ寒し ・・・都合悪けりやすぐに入院	柳 紅生
膝小僧濡らして逃げる大花野 ・・・彼と彼女かママと坊やか	桑田愛子
瓢箪の括れ恋しき日もありぬ ・・・なんでもかでも女体に見えて	下嶋四万歩
秋日記はらりと母の本音落つ ・・・母の秘密をむさぼり読むか	太田史彩
日本の裏表舐め秋台風 ・・・南の海に子分が控え	泉 宗鶴
留守の家何事もなく家守棲む ・・・空き巣狙いを見ても見ぬふり	稲沢進一
芋の葉の破れ白露のとどまらず ・・・逃げ足早き白銀の玉	佐野萬里子
畦道を華道となし彼岸花 ・・・仕方がないから田んぼを歩く	吉川正紀子
赤い羽根つけてテレビの議員さん ・・・善人らしく見せる作戦	井野ひろみ

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

登高や漢ひとりの旅ひと日
 隠沼の河童のいでし雨の月
 秋の空女ごころにあやつられ
 ぬるま湯で出るに不出られず木の葉髪
 生身魂補聴器いらぬ地獄耳
 四捨五入すれば八十雁渡る
 名曲に紛れ一振り秋日和
 そりあがり限界を知るシクラメン
 実なん天今日もばあばの下駄の音
 待宵や待てど暮せど来ぬラブメール
 念佛にアメンもまじる彼岸かな
 戌の日の祈祷孫らは七五三
 欲が出て孫一等賞の運動会
 運動会嫁の弁当万華鏡
 蟻螂の斧でも欲しし貴乃花
 いぼむしり(疣筆)いぼを探せど無い我が身
 高潮や浜に空母の打ち上がり
 高潮や高血圧のように揺れ
 秋の風邪富士の薬九層倍
 ひと粒の涙を癒やす寒露かな
 銀杏や都市伝説の雌と雄
 血圧の薬に勝る温め酒
 目玉焼黄身は半熟秋うらら
 天も地も新しき命木の実落つ
 月天心真下に不眠症の街
 生涯はつくづく短き法師蟬
 敬老日年を自覚す日なりけり
 台風雨風無くて警報下
 街路樹のどんぐりくまさんにあげたいな
 ヨロヨロのカナブンにナスのマクラかな
 台風の作るカフェオレ人をのむ
 人生は一步一步や星月夜
 吾亦紅色なき風に揺れてゐる
 紫の風に式部の実の揺れて
 友送る虫のコーラス賑やかに
 裏庭の柘榴につこり笑いをり
 団塊の世代で賑わい運動会
 大台風ぐるぐる廻る観覧車
 古写経の落札四行長き夜

相原共良
 相原共良
 青木輝子
 青木輝子
 青木輝子
 赤瀬川至安
 赤瀬川至安
 井口夏子
 井口夏子
 池田亮二
 池田亮二
 石塚柚彩
 石塚柚彩
 石塚柚彩
 泉 宗鶴
 泉 宗鶴
 伊藤浩睦
 伊藤浩睦
 伊藤浩睦
 伊藤洋二
 伊藤洋二
 伊藤洋二
 稲沢進一
 稲沢進一
 稲葉純子
 稲葉純子
 井野ひろみ
 井野ひろみ
 上山美穂
 上山美穂
 上山美穂
 梅岡菊子
 梅岡菊子
 梅岡菊子
 梅野光子
 梅野光子
 梅野光子
 太田史彩
 太田史彩

積読の文庫を崩し夜長かな
 干乾びし大蛸揺れる秋の浜
 城山を目指してをりぬ天高し
 銀熔かす色をしてをり秋夕陽
 憧れる花も実もある無花果に
 大玉の下敷きとなり天高し
 松茸の値札の0が小さ過ぎ
 名月に欠かせぬ忠治赤城山
 暖房や二番亥の子を待ちきれず
 マイケル君台風はいつから男になつたの
 秋祭り银杏飯でも炊こうかな
 一つ目の台風一家暴走す
 青のまま散りて银杏の黄になれず
 鉦叩き眠気を誘うリズムかな
 軽き空ばったばったとばった跳ぶ
 ねこじゃらし風あるやうに同じ向き
 かなかなやなにをかぞえむ数え歌
 ころんでも只で起きない草の花
 邯鄲やルルと女々しく雄の鳴き
 空襲の空を知らない曼珠沙華
 曼珠沙華の赤魔法使いの血の緑
 意地悪な雨とも呼ばれ秋時雨
 お〜いお茶ばかり連発松手入
 こほろぎに尿瓶とられて外廁
 そぞろ寒早く帰るがまた終電
 秋の夜虫の合唱に迎へられ
 お月見の芒活けても月の出ず
 百日草庭を飾りて百か日
 ゴーヤーの熟して赤き種覗く
 曼珠沙華に認知症なし群咲きて
 豪雨多々大增水の天の川
 讀めぬ字が嗤ってをりぬ秋灯下
 相向ふ揉めに揉めてる胡瓜揉み
 三回転咲く振花の難度C
 予報士に誘はれる如台風来
 旗日とは言はずもがなや敬老日
 言ひ訳は「想定外」と台風来
 ぶつぶつと念仏唱へ墓洗ふ
 空へ空へ観覧車から秋の海
 秋刀魚来て三陸の海太りだす
 ラムネ瓶からから鳴らす無月かな
 大空をキャンバスにする鰯雲

小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 岡田廣江
 岡田廣江
 岡田廣江
 小川鈍太
 小川鈍太
 加藤澄子
 加藤澄子
 加藤澄子
 川島智子
 川島智子
 川島智子
 久我正明
 久我正明
 久我正明
 工藤泰子
 工藤泰子
 工藤泰子
 桑田愛子
 桑田愛子
 小林英昭
 小林英昭
 小林英昭
 近藤須美子
 近藤須美子
 近藤須美子
 佐野萬里子
 佐野萬里子
 下嶋四万歩
 下嶋四万歩
 壽命秀次
 壽命秀次
 壽命秀次
 白井道義
 白井道義
 白井道義
 水夢
 水夢
 水夢
 鈴鹿洋子

「ただいま」彼岸花にも聞こえるように
 にこりもしない冬瓜種いっぱい抱えてる
 どこに置いても冬瓜いっしょに暮らす
 火の国の女は強し月見酒
 新走り養老の滝当てにせず
 三途川身包みはがれ曼珠沙華
 大成はせぬ晩器らし百日紅
 ハロウインの悪魔が隣うどん喰う
 ひもかわや食べても減らぬ秋昼餉
 秋山の天文台のありにけり
 真赤な恋に舞い上がる曼珠沙華
 臨終の虫にもお経をあげてやる
 秋刀魚焼く煙に母を思い出す
 ワシコフの実石榴叫び声のして
 延々とゴシップニュース秋の雨
 独り暮らしに黒鯛一匹どうしよう
 皮を剥くご苦労色に栗の飯
 ご苦労と言えば泣き顔捨案山子
 穴惑ひ迷ふ日本の温暖化
 敬老日なので徳利二本です
 何食はぬ顔で出てくる芒原
 台風の前五時間のティータイム
 赤林檎囓る白雪姫のごと
 甘栗を割りて酒飲みまた割りて
 台風に向かい投げられ夜が明けて
 シンゾウも怖れる震度七の秋
 今年酒利くだけにする休肝日
 朝食のパンに噛ませる今年米
 排尿のちびる音聞く夜長かな
 爽かや命を紡ぐノーベル賞
 身に入りてスマホの渦に巻き込まる
 トランプの出鱈目まかせ冷まじや
 台風の号数でわかる週の数
 孫ばかり必死で探す運動会
 陰で飲むビールの旨さや運動会
 秋灯や家路を急ぐ脚の群
 颱風へ傘槍にして立ち向かふ
 天高き陸橋の上の地震かな
 とんばうに覗かれてゐるスマホかな
 朝顔のボルダリングの細格子
 中国人あまた買物虫謝謝(しえしえ)
 被ぐもよしころがすもよし里芋は

鈴木和枝
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 高田敏男
 高田敏男
 高田敏男
 高橋きのこ
 高橋きのこ
 高橋きのこ
 田中 勇
 田中 勇
 田中 勇
 田中早苗
 田中早苗
 田中早苗
 田中晴美
 田中晴美
 田中晴美
 田村米生
 田村米生
 田村米生
 月城花風
 月城花風
 月城花風
 土屋泰山
 土屋泰山
 飛田正勝
 飛田正勝
 飛田正勝
 西をさむ
 西をさむ
 西をさむ
 花岡直樹
 花岡直樹
 花岡直樹
 原田 曄
 原田 曄
 原田 曄
 久松久子
 久松久子
 久松久子
 日根野聖子

銀杏てふ名の地雷撤去人

彼岸花共に咲いて共に枯れて

溪谷や歩けば靴の鳴る九月

赤とんぼ遊びにあきて水辺かな

締めだされ脇に寄せられ花野ゆく

濡縁のなくて十五夜忘れらる

憧れのさめしまドンナ敬老会

着飾って善人ばかり敬老会

ストレスを発散したか野分去る

ご祝儀の準備を急かす笛太鼓

台風に産児制限出来ぬのか

強風や優しく残暑吹き払い

厄逃れほつと安堵の稲ぶすま

重ね着て医師に詫びてる検診日

言わずとも酔わせておくれ敬老日

彼岸花改憲勝手にせんといて

出雲路の蕎麦売り切れてしまひけり

秋空を借景にして大観の庭

山下正純

山下正純

山本 賜

山本 賜

横山喜三郎

横山喜三郎

横山喜三郎

横山洋子

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

吉原瑞雲

吉原瑞雲

吉原瑞雲

渡部美香

渡部美香

渡部美香